

構成員提出資料

- ・ 知久構成員 ・ ・ ・ 1
- ・ 原田構成員 ・ ・ ・ 2
- ・ 室田構成員 ・ ・ ・ 5

<論点 4> 包括的な支援体制の整備のあり方について

- 1 包括的支援体制の構築において、このような自治体内における分野横断の議論や試行錯誤を行えるようなプロセスの柔軟性を価値の一つとして位置づけ、新たな制度の創設を検討する場合にも、自治体の裁量の幅を確保できるような設計とすべきと考えるが、いかがか。
- 2 その際、国による財政支援についても、
 - ・地域の多様なニーズに合わせて、分野・属性横断的に一体的・柔軟に活用することができる
 - ・煩雑な事務処理を行うことなく支援を提供できる
 など、一人ひとりのニーズや地域の個別性に基づいて、柔軟かつ円滑に支援が提供できるような仕組みを検討すべきと考えるがいかがか。
- 3 同時に、現在の属性ごとの制度と比べて、自治体における事業の実施の支障とならないよう、経費の性格の維持など国による財政保障のあり方にも十分配慮することが必要と考えられるが、いかがか。

意見

- <論点 4> 包括的な支援体制の整備のあり方については、上記 3 点が検討課題として提示されています。
- うち、1 及び 2 については、異論がありません。
- ただし、3 につきましては、国による属性別の財政支援スキーム（※）を維持・拡大した上で、包括的な支援体制を全国的に整備するための新たな安定的な恒久財源が必要であると考えます。

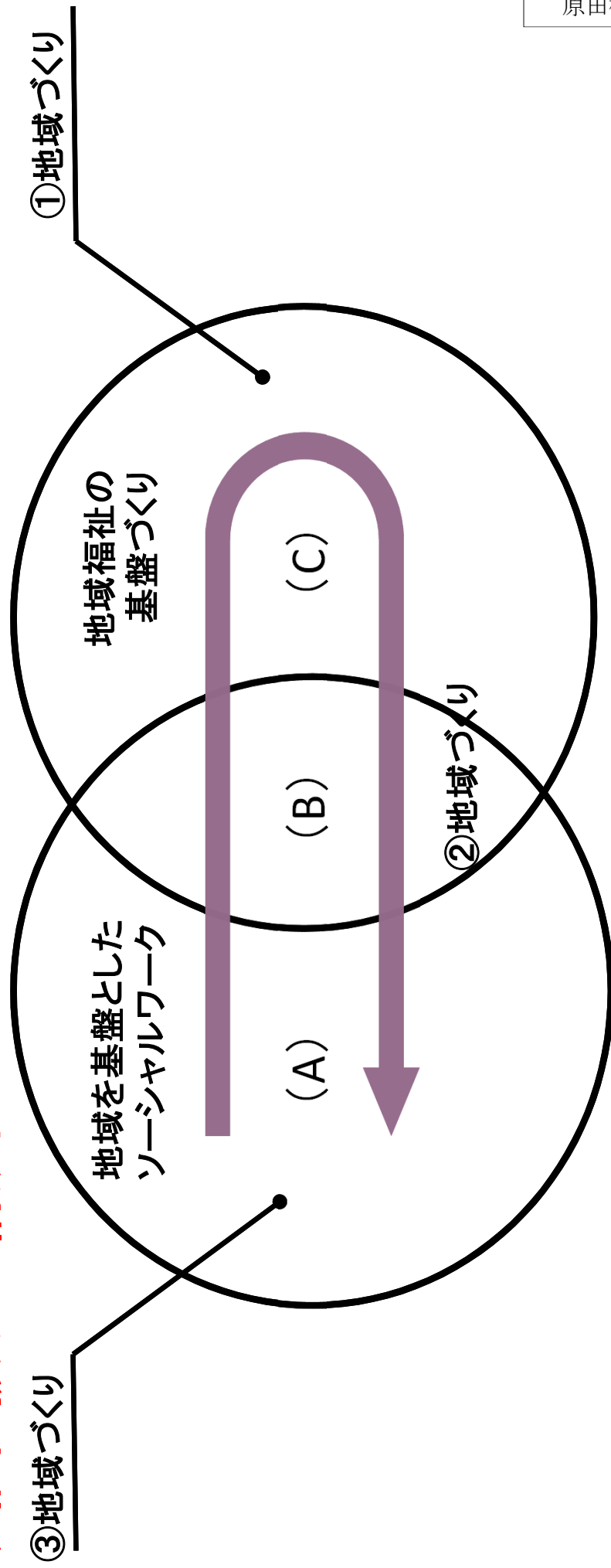
※・地域支援事業交付金（介護）

- ・地域生活支援事業費等補助金（障害）
- ・子ども・子育て支援交付金（子ども）
- ・生活困窮者自立支援負担金（生活困窮者） など

「地域づくり」の3つの方向性（地域力強化検討会中間とりまとめ）

- ①「自分や家族が暮らしたい地域を考える」という主体的・積極的な取組の広がり 地域活性化 産業等との連携
- ②「地域で困っている課題を解決したい」という気持ちで活動する住民の増加 多職種連携と地域住民の協働
- ③「一人の課題」について解決する経験の積み重ねによる誰もが暮らしやすい地域づくり ソーシャルサポートネットワーク

地域福祉援助の構成図



- (A) 個を地域で支える援助
- (B) 個を支える地域をつくる援助
- (C) 地域福祉の基盤づくり

•生活の包括(全体性)

•人生の包括(継続性・連続性)

•世帯の包括(家族支援)

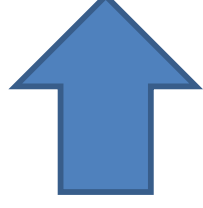
•制度、サービスの包括(多職種連携)

•専門職と地域住民の包括(協働)

•地域課題の包括(減災、居住、産業)

社会的孤立 Social Isolation

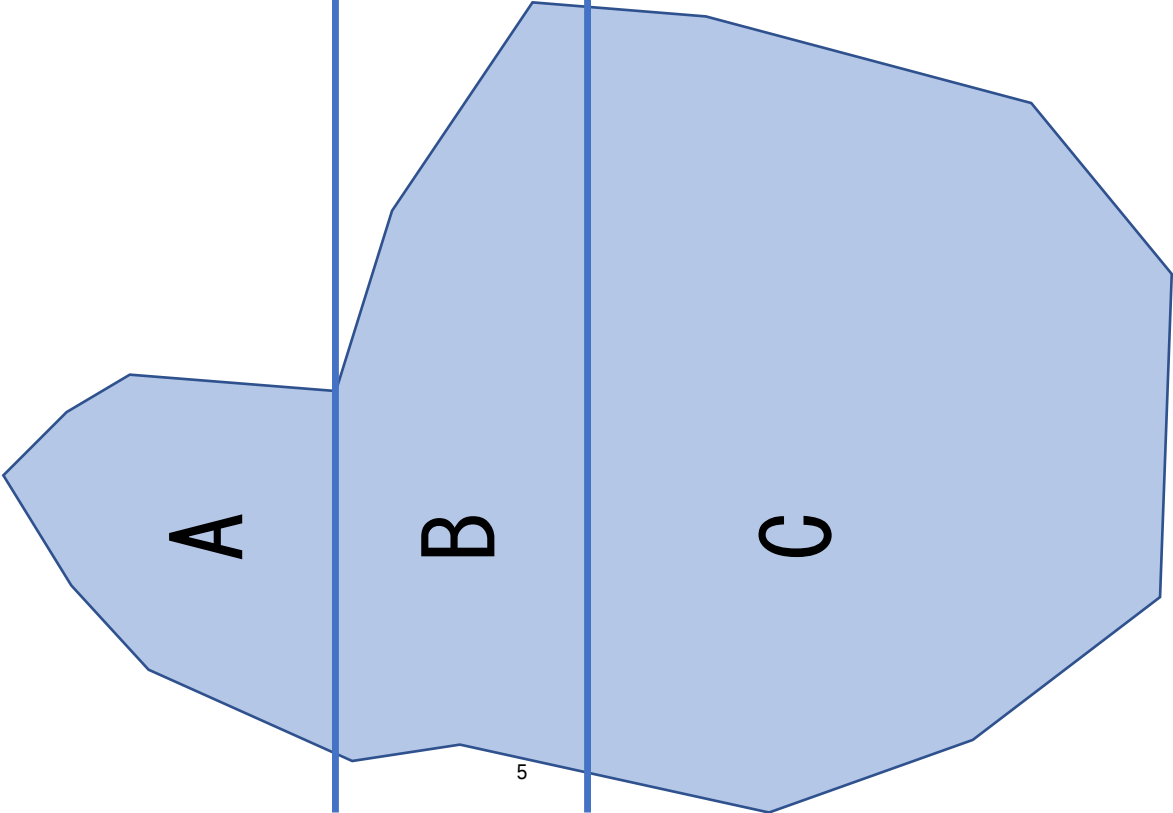
家族からの孤立
近隣社会からの孤立
集団、組織からの孤立
情報からの孤立
制度・サービスからの孤立
社会的役割からの孤立



生きる意欲の
喪失
セルフネグレ
クト
(自暴自棄)



社会的排除



- ・ 「断らない」相談支援などの課題解決の機能
- ・ 新たに開発された活動やサービス（出口支援）

- ・ プラットフォーム
- ・ 協議体
- ・ ネットワーク

- ・ 従来から存続する地縁関係
- ・ 顔見知り、お互い様の関係
- ・ 地域の活動などに参加・協力する関係
- ・ 問題意識を共有する関係
- ・ 住民/当事者の中に培われるリーダーシップ

私の問題意識：

- ・「断らない」相談支援や「出口支援」などの新たに開発された活動やサービス（図中のA）は、地域における活動全体のほんの一部分に過ぎない。ただし、表に出ている部分なので、目に見えやすく、政策として位置付けやすい。
- ・しかし、下に隠れた部分（BやC）がなければAは成立しにくい。
- ・Aを各地に作るという政策が推進されると、BやC（特にC）の存在を無視してAだけを構築するような結果になってしまうかねない。
- ・地域によってはすでにBやCの体制が盤石で、Aができている地域や、Aを作ろうと思えば、BやCの性格に応じたAを作り出せる地域が存在する。一方で、BやCの体制が脆弱な地域がある。また、BやCが存在するが、Aを生み出すような性格ではない地域の場合、Aを作り出す際の足かせになってしまう可能性もある。
- ・Cを作ることには時間がかかるし、活動に関わる住民や当事者の動機が重要な働きをするため、うまくいかないことが少なくない（ノウハウが十分に体系化されていない）。何度も住民/当事者と議論を重ねることが必要だし、それを怠ると、Cは簡単に崩れてしまう。
- ・Cが福祉の活動に積極的ではない場合、さらに時間がかかる場合もある。
- ・自治体の担当者は、そうしたCの構造を理解した上で、まずはCの構造をアセスメントすること、そしてBとCを構築することを中長期的に計画した上で、Aを構築していくことが重要になる。
- ・BはCの活動の延長として水面下で（インフォーマルに）取り組まれていることもある。フォーマルな構造にすることのメリットもあるが、インフォーマルなままの方がいい場合もある。
- ・コーディネーターを配置する場合、ABのみならず、Cにも関わると考えていいのか。
- ・地域のアセスメントの結果、配置されたコーディネーターがCの構築に1年間集中するという場合もあるし、それでも結果がすぐでない場合もあるが、そのような実践を許容できるのか。